

大量不当処分粉碎闘争を貫徹！

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎／

日刊 動労千葉

81.4.10

No.7/2

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六・八 総機三二七二〇七

運転事故まで利用した千鉄局の 闘争破壊策動をうち破る！

動労千葉の不当処分粉碎闘争は、四月四日の各支部抗議集会・抗議交渉で開始され、4.6局前総決起集会への五一〇名の結集、4.6.8の減産闘争（B行動）の整然かつ毅然たる貫徹をもって叩いぬかれた。

動労千葉の組織破壊を唯一の目的とした四名の解雇をはじめとする二二五名の超反動的な不当処分攻撃に対する千三百名労働者の怒りを体现する、この叩きの爆発に対して、権力・当局は極めて巧らしい闘争破壊活動を行ってきた。

腐敗にまみれた秋山労政の実態！

四月七日、七時頃、総武線新検見川、某車両で発生した踏切支障報知装置へのイタズラに遭遇した列車が五分程度現場に停車したという事故に端を発した列車遅延の事態は、二分半ヘッドで電車が運転される超過密区間のラッシュ時間帯に発生した事故であるということ、その後の千鉄当局中枢の意図的とも言える列車遅延の拡大策動によって、総武線、管内全線、首都圏のダイヤを終日無ダイヤ状態にするという大混乱を招来したのである。

この程度の事故であれば、朝のラッシュ帯に多少のダイヤの乱れがあっても、昼間帯にその混乱を吸収し、夕方のラッシュ以前にダイヤが正常に復することは常識である。

この混乱が、夕刻のラッシュ時間帯まで持ち越され、拡大し、終日混乱した真因は、踏切事故までも利用し、列車の正常運行確保より動労千葉の組織破壊を優先させようとする腐敗にまみれた千鉄局長、秋山労政の実態を露呈した明白な策動である。

乗客を煽動し、騒乱をも画策した千鉄局！

この千

鉄局中枢の策動を裏付けるものは、

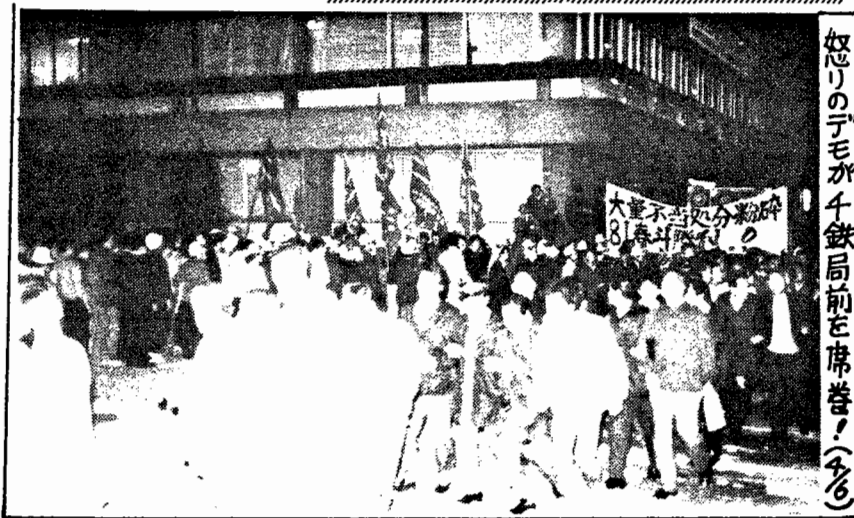
事故発生後直ちに開始された各駅での案内放送をはじめとする乗客への煽動工作である。

列車遅延の原因を全て「動労千葉の減産闘争のせいである」として乗客の怒りを煽り、動労千葉の電話番号を教えて鉄道電話まで使って、抗議電話を集中させ、一オマスコミハニセの内容を流しさらに混乱を助長させる策動を終日露骨にくり返したのである。

この為、夕刻ラッシュ時に、千葉駅五番線ホームの乗務員詰所に乗客が押しかけ、窓ガラスを破壊したのをはじめとする事態が発生し、混乱に拍車をかける結果が各駅で発生しているのである。

しかも、千鉄局中枢は、この混乱が現に発生している最中に下級職制を強制し、混乱の收拾よりも動労千葉の非協力を監視する要員の配置を優先させ、現認策動を行ったのである。

（裏へ続く）



怒りのデモが千鉄局前を席巻！（多）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！